

# 聖学院中学校・高等学校（男子校）

## 《国語科非常勤講師募集要項》

1. 募集人数 1～2名  
※中学1年の授業を担当していただきます。  
※育休代替のため。1名の場合は15コマ、2名の場合は6～9コマ。
2. 採用期間 2023年1月1日～2023年3月31日（更新の可能性あり）
3. 応募条件 ①キリスト教教育に理解のある方  
②中学校及び高等学校の教員免許状を取得している方  
③週に3～5日間、出勤できる方（他校との掛けもち可）  
※火曜日～土曜日のなかで、出勤可能日を履歴書内にお示しください。
4. 応募書類 ①履歴書（書式自由、写真添付、メールアドレスを必ず記載、年号は西暦で記載）  
※私学適性検査を受検された方は結果を履歴書にご記入下さい。  
②教員免許状写し  
※ 免許更新手続き者は修了証明書も同封してください。  
※ 応募封筒の表面に「国語科非常勤講師応募書類在中」と明記して下さい。  
応募書類は返却いたしませんのでご了承下さい。なお、出願書類に記載されている個人情報  
は選抜のためのみに使用し、それ以外の用途には一切使用いたしません。
5. 給与 10,305円以上：週1時間当たりの月単価（学部新卒2022年度実績、経験による前歴換算あり）
6. 応募締切 2022年 11月2日（水）郵送必着  
※応募書類をご郵送いただき、11月5日（土）選考当日、直接本校にお越し下さい。  
改めてのご案内の連絡はいたしません（書類選考はありません）。
7. 選考場所 聖学院中学校高等学校  
（送付先） 〒114-8502 東京都北区中里3-12-1  
交通：山手線「駒込駅」東口下車徒歩5分  
東京メトロ南北線「駒込駅」4番出口徒歩7分  
電話：03（3917）1121
8. 選考日程 2022年11月5日（土）  
選考内容「模擬授業」及び「面接」 16時～  
※模擬授業では電子黒板を使用できます。詳細は別紙（非常勤講師 採用試験 選考内容  
について）をご確認ください。  
※選考結果は11月9日（水）までにメールにてお知らせいたします。
9. その他 ①上履き及び下履きを入れる袋をご持参下さい。  
②採用の際は「健康診断書（胸部レントゲンを含む）」が必要になります。提出時期については  
改めてご連絡致します。  
③ご不明な点があれば、総務統括部長/日野田昌士（[m-hinoda@seig-boys.jp](mailto:m-hinoda@seig-boys.jp)）及び国語科教科主任  
島立光人（[m-shimadate@seig-boys.jp](mailto:m-shimadate@seig-boys.jp)）までメールにてお問い合わせください。メールの件  
名は【採用について+お名前】としてください。3日以内に返信がない場合には、お手数です  
が、本校代表（03-3917-1121）までお電話ください。

※次ページに『採用試験選考内容』あり。

非常勤講師 採用試験 選考内容について

- 模擬授業テーマ : 中学1年生に古典文学に対する興味関心を抱かせる。  
使用教材 : 蓬萊の玉の枝——「竹取物語」から  
想定する時期 : 中学1年3学期1月  
時数 : 全四回中の一回目の授業の冒頭(10分間)  
備考 : 自作プリントの配布可能(枚数は10枚ご用意ください)。  
電子黒板の使用可能(PCは各自でご用意ください)。

蓬萊の玉の枝——「竹取物語」から

今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきのみやつことなむいひける。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてみたり。

今ではもう昔のことだが、竹取の翁とよばれる人がいた。野や山に分け入って竹を取っては、いろいろな物を作るのに使っていた。名前を、さぬきのみやつこといった。

(ある日のこと) その竹林の中に、根元の光る竹が一本あった。不思議に思って、近寄って見ると、筒の中が光っている。それを見ると、(背丈)三寸ほどの人が、まことにかわいらしい様子で座っていた。

これは、現在伝わっている日本の物語の中では最古のものといわれている「竹取物語」の冒頭部分である。この後、物語は次のように続いていく。

子供を授かったと喜んだ翁は、その子を籠の中に入れて大切に育てた。子供はすくすくと成長して、わずか三か月ばかりで一人前の娘になった。その姿は輝くばかりに美しく、辺りに光が満ちるようであったから、娘を「なよ竹のかぐや姫」と名づけた。

美しいかぐや姫のうわさが広まると、多くの男たちが、ぜひ結婚したいと集まってきた。かぐや姫は、なかでも熱心な五人の貴公子の求婚を断り切れず、望みの品を持参した人と結婚すると言って、一人ずつに難題を出した。かぐや姫の望みの品は、いずれも入手至難のものばかりであったが、五人の求婚者は、それでも姫との結婚を諦め切れず、それぞれに知恵や富の力で難題に挑むのであった。